

せん じゆ きゆう か 千 住 の 旧 家

—千住の文化を支えた人々—



▲横山家住宅(千住4-28-1)



▲千住名倉医院(千住5-22-1)

千住四丁目の横山家は、地漉紙問屋として有名です。梅田や本木など近隣の農家から地漉紙を仕入れ、日本橋の方へ売りさばっていました。

地漉紙とは、「浅草紙」と呼ばれる再生紙のことで、主に加工原料、落し紙(トイレトペーパー)として用いられました。大千住の面影をのこす、横山家住宅は、区の登録文化財に登録されています。

千住五丁目の名倉家は、「骨接ぎ」の代名詞として全国にその名を知られています。名倉家は、寛文～元禄の頃(17世紀後半)に千住へと移り住み、四代目の名倉直賢のとき、楊心流柔術などを極め、明和7(1770)年頃に接骨業を始めました。以来、名倉家子孫は「業祖」名倉直賢の意志と伝統を受け継ぎ、代々、整形外科医院として活躍してきました。

こうした旧家によって、千住の文化は今日まで支えられてきました。